

シニア目線から見た知的インタフェースへの期待

Expectation for AI in Longevity Society, from the Eye of Elderly

牧 壮

Takeshi Maki

(一社) スマートシニアブレインズ理事

Smart Senior Brains

「新老人の会」・スマートシニアアソシエーション代表

Smart Senior Association

1. 講演要旨

65 歳以上の人口が 26.1%という世界一の長寿国の日本の高齢化は益々進み新たな未体験の社会が生まれようとしている。急速な長寿化は「認知機能」はじめ様々な人間性に障害をもたらし、社会的孤立や経済的負担を増大させている。長寿者が自立し社会にも貢献できることが健やかな長寿社会の大きな前提条件となる。

一方最新の人工知能技術は高齢者が失っていく機能の補完のみならず、今まで不可能と考えられていた新たな機能を生み出す可能性があり、人工知能が新しい長寿社会を創出することが期待される。高齢化社会と情報化技術の活用については従来、介護分野が主体で進められてきたが、これからは人口知能技術をはじめとする最新の情報技術が、知的にも健やかな長寿者のために開発が進められる重要性がますます拡大している。これをどう実現していけるのかをシニア目線から考察し、ディスカッションしてみたい。

2. ディスカッションテーマ

1. 超高齢化シニア社会の実態とそのトレンド, 人生 100 歳時代が見えてきた, 2025 年問題とは。そしてその対応は?
2. 加齢とともに低下する機能とシニアライフ, フレイル(虚弱化)とは, 認知症と介護, あきらめ? 新たな希望の世界?
3. シニア目線で期待する人工知能技術とは, 新しいシニアライフへの期待とは何か? またそれはどう実現していくか?

参考文献

[牧 14] 牧 壮. : iPad で 65 歳からの毎日を 10 倍楽しむ私の方法, 明日香出版, (2014).

[牧 16] 牧 壮: A 人生 100 歳時代の「つながり」を支える ICT の力. 公益財団ダイヤ高齢化社会研究所編, (2016).

連絡先: 牧 壮, 川崎市幸区小倉 1-1 G-2208,
tmaki1936@gmail.com